



2 セットアップ

本体の設置からお使いになれる状態にするまでの手順について説明します。また、装置を再セットアップする場合もここに記載している説明を参照してください。

- | | |
|-------------------------------|---|
| 設置と接続(→30ページ) | 本体の設置にふさわしい場所やラックへの搭載手順、背面のコネクタへの接続について説明しています。 |
| 初めてのセットアップ(→48ページ) | システムを使用できるまでのセットアップ手順について説明しています。ここでは必要最低限のセットアップのみを説明しています。お客様のお使いになられる環境に合わせた詳細なセットアップについては第3章で説明しています。 |
| 管理コンピュータのセットアップ(→54ページ) | ネットワーク上のコンピュータからシステムの管理・監視をするバンドルアプリケーションのインストール方法について説明しています。 |
| 再セットアップ(→55ページ) | システムを再セットアップする方法について説明しています。 |

設置と接続

本体の設置と接続について説明します。

設 置

本装置はEIA規格に適合したラックに設置して使用します。

ラックの設置については、ラックに添付の説明書を参照するか、保守サービス会社にお問い合わせください。

ラックの設置作業は保守サービス会社に依頼することもできます。

 警告	
 	装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。 ● 指定以外の場所で使用しない ● アース線をガス管につながらない
 注意	
  	装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。 ● 一人で搬送・設置をしない ● 荷重が集中してしまうような設置はしない ● 一人で部品の取り付けをしない ● ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない ● 複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない ● 定格電源を超える配線をしない

次に示す条件に当てはまるような場所には、ラックを設置しないでください。これらの場所にラックを設置したり、ラックに本装置を搭載したりすると、誤動作の原因となります。

- 装置をラックから完全に引き出せないような狭い場所。
- ラックや搭載する装置の総質量に耐えられない場所。
- スタビライザが設置できない場所や耐震工事を施さないと設置できない場所。
- 床におうとつや傾斜がある場所。
- 温度変化の激しい場所（暖房器、エアコン、冷蔵庫などの近く）。

- 強い振動の発生する場所。
- 腐食性ガスの発生する場所、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所。
- 帯電防止加工が施されていないじゅうたんを敷いた場所。
- 物の落下が考えられる場所。
- 強い磁界を発生させるもの（テレビ、ラジオ、放送／通信用アンテナ、送電線、電磁クレーンなど）の近く（やむを得ない場合は、保守サービス会社に連絡してシールド工事などを行ってください）。
- 本装置の電源コードを他の接地線（特に大電力を消費する装置など）と共用しているコンセントに接続しなければならない場所。
- 電源ノイズ（商用電源をリレーなどでON/OFFする場合の接点スパークなど）を発生する装置の近く（電源ノイズを発生する装置の近くに設置するときは電源配線の分離やノイズフィルタの取り付けなどを保守サービス会社に連絡して行ってください）。



ラック内部の温度上昇とエアフローについて

複数台の装置を搭載したり、ラックの内部の通気が不十分だったりすると、ラック内部の温度が各装置から発する熱によって上昇し、Expressサーバの動作保証温度（10℃～35℃）を超え、誤動作をしてしまうおそれがあります。運用中にラック内部の温度が保証範囲を超えないようラック内部、および室内のエアフローについて十分な検討と対策をしてください。

本装置では、前面から吸気し、背面へ排気します。

本体をラックに取り付ける手順を以下に示します。取り外し手順については、取り付け手順の後で説明しています。

ここでは、NEC製のラックまたは他社製ラックへの取り付け手順について説明します。



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 規格外のラックで使用しない
- 指定以外の場所で使用しない

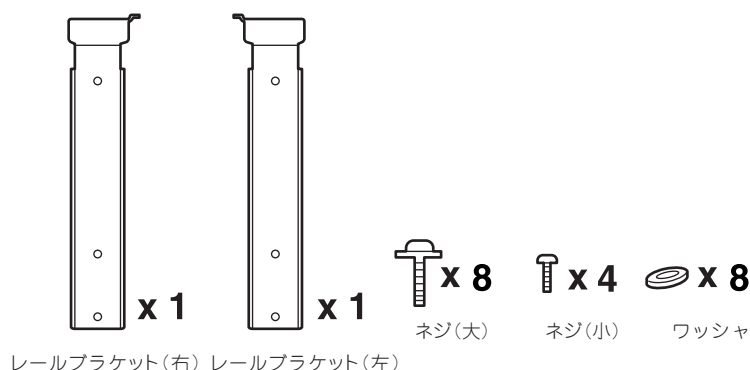


装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 可燃性の高いデバイスの上に設置しない
- ラックから引き出した状態にある装置に荷重をかけない
- 装置を引き出した状態にしない
- カバーを外したまま取り付けない
- 指を挟まない

取り付け部品の確認

ラックへ取り付けるために次の部品があることを確認してください。



必要な工具

ラックへ取り付けるために必要な工具はプラスドライバのみです。

取り付け手順

本装置はNEC製および他社製のラックへ取り付けることができます。次の手順で装置をラックへ取り付けます。

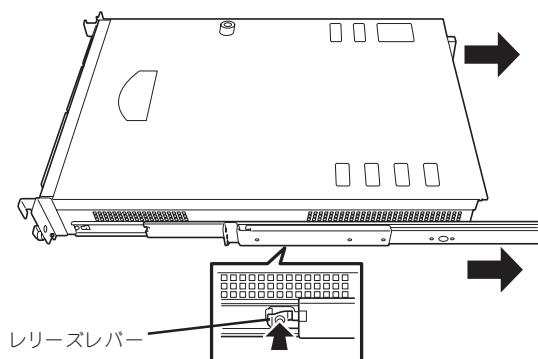
重要 オプションのN8143-52ケーブルアームを取り付ける場合は、ケーブルアームに添付の説明書を併せて参照してください。

レールアセンブリの取り外し

本体に取り付けられているスライド式のレールを取り外します。

レールを持ってゆっくりと装置後方へスライドさせてください。しばらくすると、「カチッ」とロックされます。

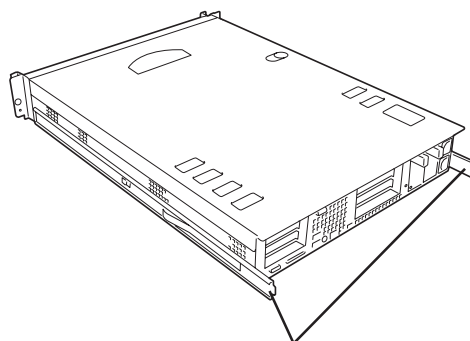
本体左右の側面にあるリリースレバーを押して、ロックを解除しながら本体から取り外します。



レールアセンブリを取り外すと、本体はネジ止めされたインナーレールのみが取り付けられた状態になります。



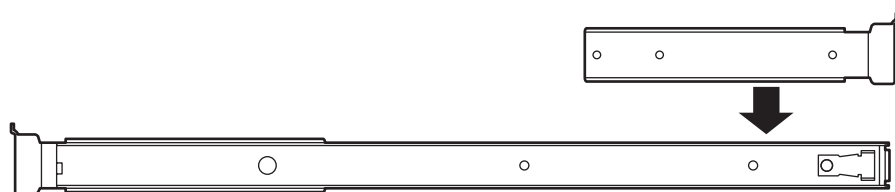
レールアセンブリは、取り外したインナーレールに再度取り付けます。どちら側のインナーレールから取り外したものがわかるように印を付けるなどして区別してください。複数の本装置を設置する際もどの装置のどちら側のインナーレールから取り外したものがわかるように区別してください。



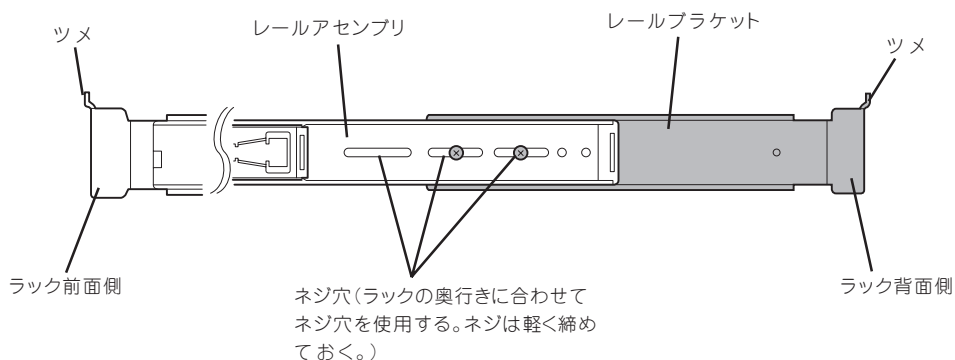
インナーレール

レールブラケットの取り付け

取り外したレールアセンブリに添付のレールブラケットを取り付けます。



レールアセンブリの先端にあるネジ穴（長穴）とレールブラケットのネジ穴を合わせて軽く固定します。レールブラケットでラックの奥行きとの長さを調節するためです。レールブラケットには右用と左用があります。レールアセンブリに取り付けたときに先端のツメがレールアセンブリの反対側の先端にあるツメと同じ向きにあることを確認してください。



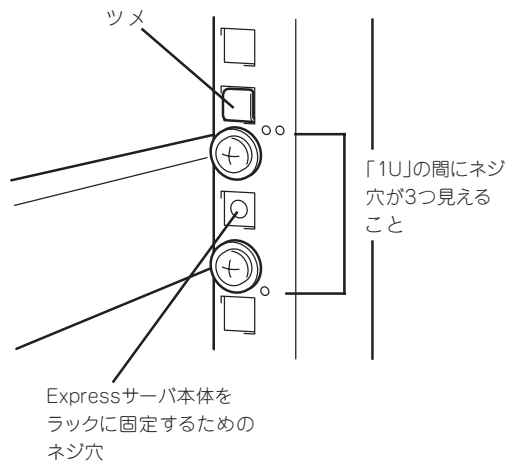
レールアセンブリの取り付け

1. レールアセンブリの先端にあるツメを上に向け、先端のフレームをラックの内側からラックのフレームに突き当てて、ネジ(2本)とワッシャー(2個)で固定する。



チェック

先端にあるネジ穴が鉛直になるように位置を決めてください。

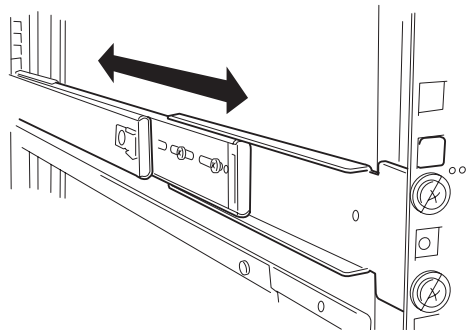


2. レールブラケットをスライドさせて、ラックの内側からラックのフレームに突き当てて、ネジ(2本)とワッシャー(2個)で固定する。

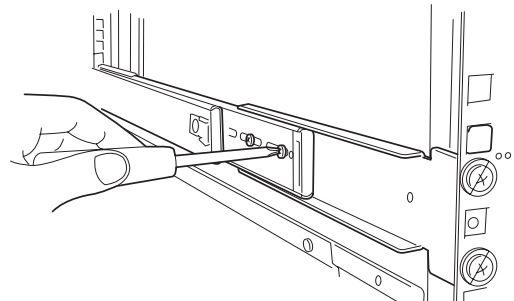


チェック

先端にあるネジ穴が鉛直になるように位置を決めてください。



3. レールブラケットを固定する。



本体の取り付け

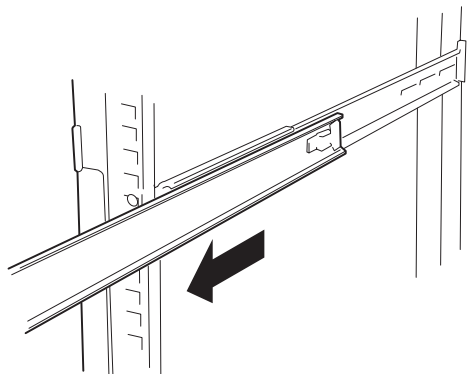
⚠ 注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 一人で持ち上げない
- 指を挟まない

1. 左右のレールアセンブリのスライドレールをロックされるまで引き出す。

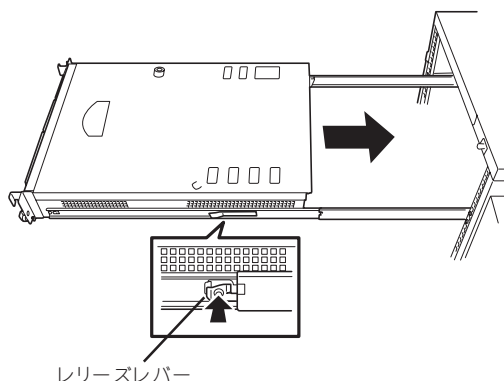


2. 2人以上で本体をしっかりと持ってラックへ取り付ける。

本体側面のインナーレールをラックに取り付けたレールアセンブリに確実に差し込んでからゆっくりと静かに押し込みます。

途中で本体がロックされたら、側面にあるリリースレバー（左右にあります）を押しながらゆっくりと押し込みます。

初めての取り付けでは各機構部品がなじんでいないため押し込むときに強い摩擦を感じることがあります。強く押し込んでください。



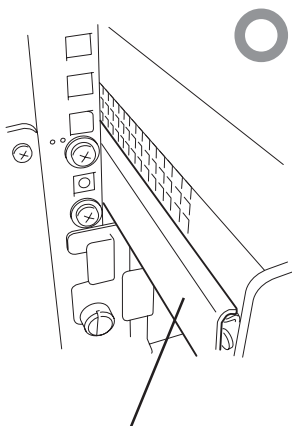
リリースレバー

3. 本体を何度かラックから引き出したり、押し込んだりしてスライドの動作に問題がないことを確認する。

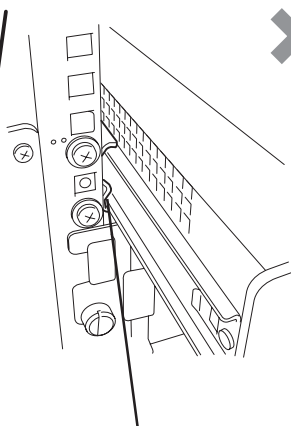


チェック

スライドレール部分の動作を確認してください。スライドレールがラックのフレームに当たり、引き出せない場合は、スライドレールを取り付け直してください。



スライドレールをラックから引き出せる

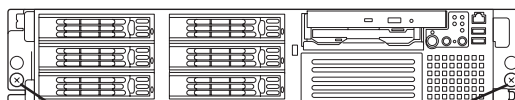


スライドレールがラックのフレームに当たって引き出せない

本体の固定

1. Expressサーバをラックへ完全に押し込む。
2. 前面の左右にあるセットスクリューでラックに固定する。
3. フロントベゼルを取り付ける。

以上で完了です。



セットスクリュー

取り外し手順

ラックからの取り出し作業は必ず複数名で行ってください。

⚠ 注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

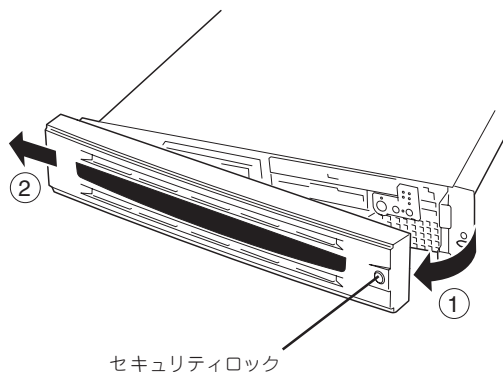
- 一人で持ち上げない
- 指を挟まない
- ラックから引き出した状態にある装置に荷重をかけない
- ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない
- 複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない
- 動作中に装置をラックから引き出さない

1. セキュリティロックを解除してフロントベゼルを取り外す。

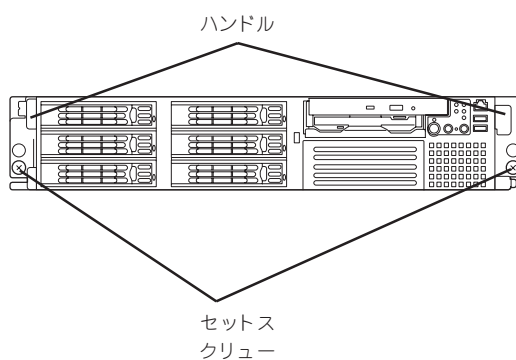
2. システムの電源がOFFになっていることを確認してから、本体に接続している電源コードやインターフェースケーブルをすべて取り外す。

3. <オプションのケーブルアームを取り付けている場合のみ>

ケーブルアームを固定しているネジ2本を外し、ケーブルアームを本体から取り外す。



4. 前面のセットスクリュー2本をゆるめる。

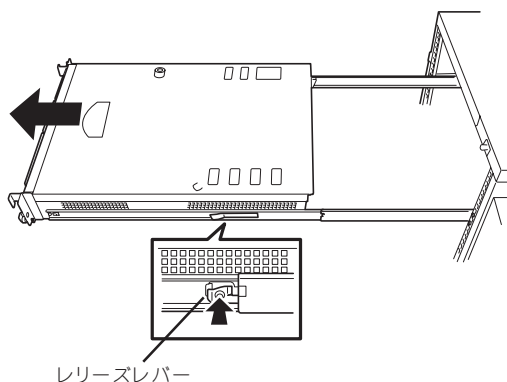


5. ハンドルを持ってゆっくりと静かにラックから引き出す。
「カチッ」と音がしてラッチされます。
6. 左右のリリースレバーを押してラッチを解除しながらゆっくりとラックから引き出す。

重要

- 複数名で装置の底面を支えながらゆっくりと引き出してください。
- 装置を引き出した状態で、引き出した装置の上部から荷重をかけないでください。装置が落下するおそれがあり、危険です。

ラックの機構部品も取り外す場合は、「取り付け手順」を参照して取り外してください。



リリースレバー

接 続

本体をネットワークに接続します。

ネットワークケーブルを本体に接続してから添付の電源コードを本体に接続し、電源プラグをコンセントにつなげます。

警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

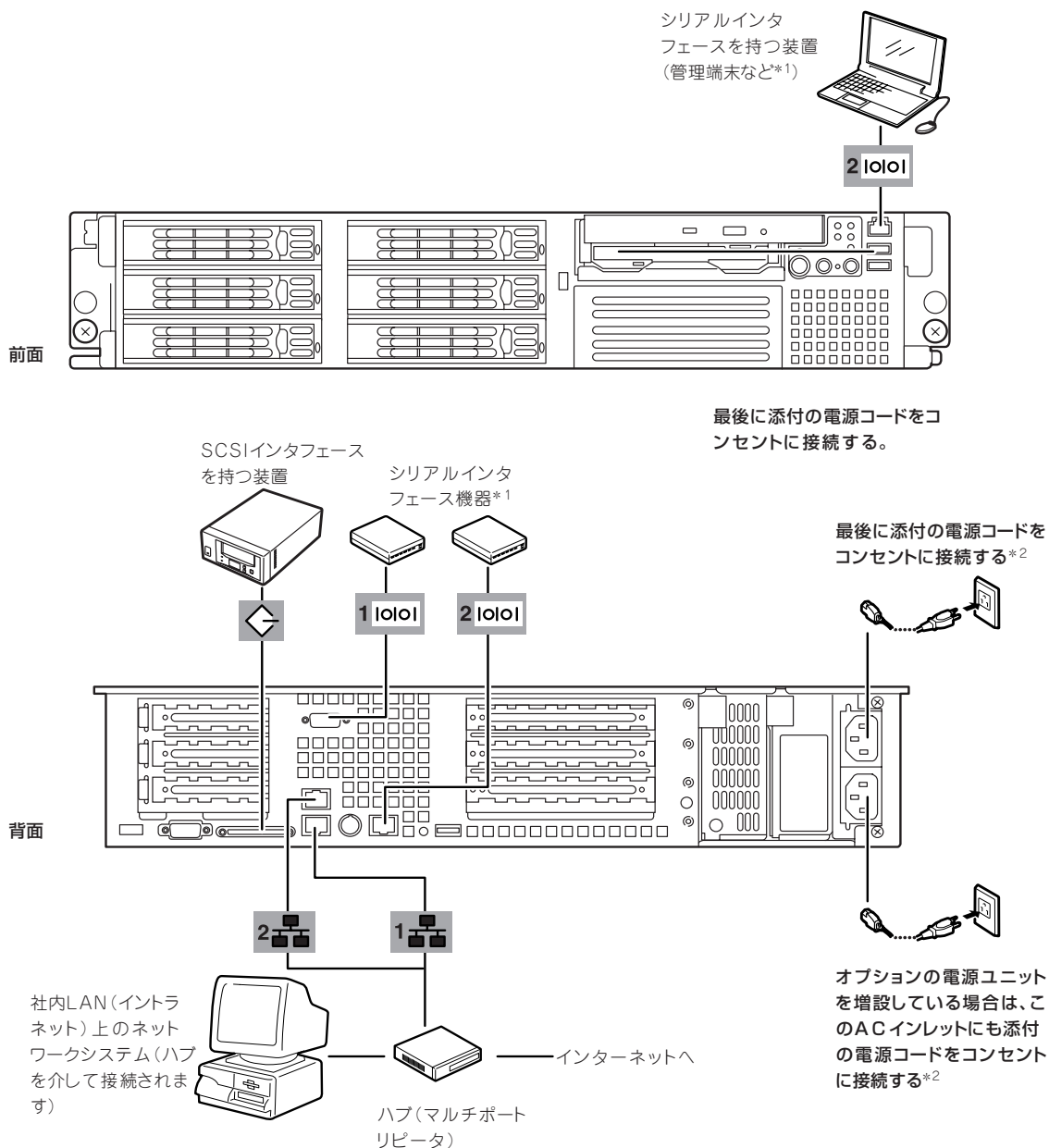
- めれた手で電源プラグを持たない
- アース線をガス管につながない

注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外のコンセントに差し込まない
- たこ足配線にしない
- 中途半端に差し込まない
- 指定以外の電源コードを使わない
- プラグを差し込んだままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない
- 指定以外のインタフェースケーブルを使用しない



- *1 専用回線へ直接接続することはできません。
管理PCなどのコンソールの接続はシリアルポート2のみ可能です (BIOSの設定が必要)。また、前面が背面のいずれか一方のシリアルポート2のみに接続してください。
標準の状態では誤挿入防止のためにキャップが取り付けられています。
- *2 電源コードは、15 A以下のサーキットブレーカに接続すること。



重要

- 本体および接続する周辺機器の電源をOFFしてから接続してください。ONの状態のまま接続すると誤動作や故障の原因となります。
- NEC以外(サードパーティ)の周辺機器およびインタフェースケーブルを接続する場合は、お買い求めの販売店でそれらの装置が本装置で使用できることをあらかじめ確認してください。サードパーティの装置の中には本装置で使用できないものがあります。
- SCSIの規格によってケーブル長(SCSI機器内部の接続ケーブル長を含めたケーブルの全長)には制限があります。詳しくはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください(Expressサーバ内部のSCSIケーブル長は0.5mです)。
- 本装置の「100BASE-TX/10BASE-Tコネクタ」と「シリアルポート2コネクタ」は、同じ形状をしています。ケーブルを差し間違えないよう注意してください。
誤挿入を防止するために、本装置に接続するLANケーブルのコネクタに「LANポート」と書かれたタグなどを付けて見分けられるようにしてください。
- シリアルポートコネクタには専用回線を直接接続することはできません。
- 保守用として前面のシリアルポートコネクタを使用するときは、背面のシリアルポート2コネクタには何も接続しないでください。
- 電源コードやインタフェースケーブルをケーブルタイで固定してください。
- ケーブルがラックのドアや側面のガイドレールなどに当たらないようフォーミングしてください。
- 電源コードは装置のACインレット部分で少したるませる程度にフォーミングしてください。装置を引き出したときに電源コードが抜けるのを防ぐためです。
- 電源コードのプラグ部分が圧迫されないようにしてください。



チェック

- 接続しようとしているケーブルを確認してください。本装置の「100BASE-TX/10BASE-Tコネクタ」と「シリアルポート2コネクタ」は、同じ形状をしています。ケーブルを差し間違えないよう注意してください。
誤挿入を防止するために、本装置に接続するLANケーブルのコネクタに「LANポート」と書かれたタグなどを付けて見分けられるようにしてください。
- ネットワークに接続する前に次の点について確認してください。
 - ー LANのネットワーク設定
本装置に割り当てるIPアドレスやネットワーク環境について確認してください。
 - ー ネットワーク機器
必要なルータ、ハブ、ケーブルが準備されていることを確認してください。またISPとの接続に用いるルータもしくはダイヤルアップルータに、あらかじめインターネット接続に必要な設定を行い設置しておいてください(イントラネットで用いる場合は必要ないこともあります)。
 - ー クライアントPC
本装置とは別に、Windows XP/2000、Windows NT、またはWindows Me/98/95のいずれかのWindows OSが利用可能なクライアントマシン(PC)を用意してください。最低限の初期設定を行うための「初期導入設定ツール」の実行に利用します。



ヒント

無停電電源装置(UPS)を導入し、電源制御システムの構築を検討されている場合は、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください

以上で本体の電源をONにできる状態になりました。購入後、初めて本体の電源をONにする場合は、この後の「初めてのセットアップ」をご覧ください。再セットアップの場合は、55ページの「再セットアップ」を参照してください。

シリアルポートへの接続について

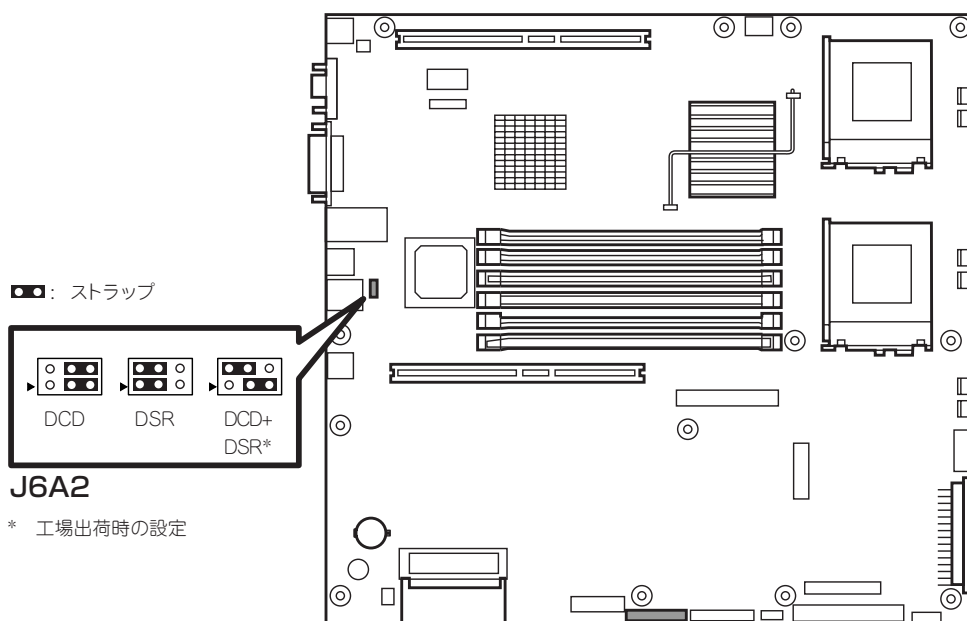
Expressサーバの前面ならびに背面にあるRJ-45シリアルポートは、さまざまなシリアルデバイスを接続することができますが、デバイスによっては、DCD/DSR信号の仕様によりマザーボード上のジャンパピン(J6A2)の設定を変えたり、オプションのシリアルポート変換ケーブルを介して接続したりする必要があります。

オプションのシリアルポート変換ケーブルには、「F」のラベルが貼り付けられているものと、「R」のラベルが貼り付けられているものの2種類のケーブルがセットで添付されています。

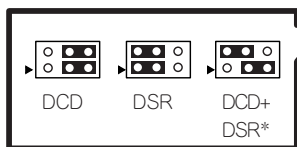


機器間の電位差で装置が故障おそれがあります。シリアルポートへ接続したケーブルを抜き差しするときは、本体と接続先の装置の電源をOFFにし、電源コードを抜いてから行ってください。

ジャンパピン(J6A2)は次に示す図の場所にあります。カバーの取り外しやその他の内蔵部品の取り外しについては、この後の「内蔵オプションの取り付け」を参照してください。



■: ストラップ



J6A2

* 工場出荷時の設定

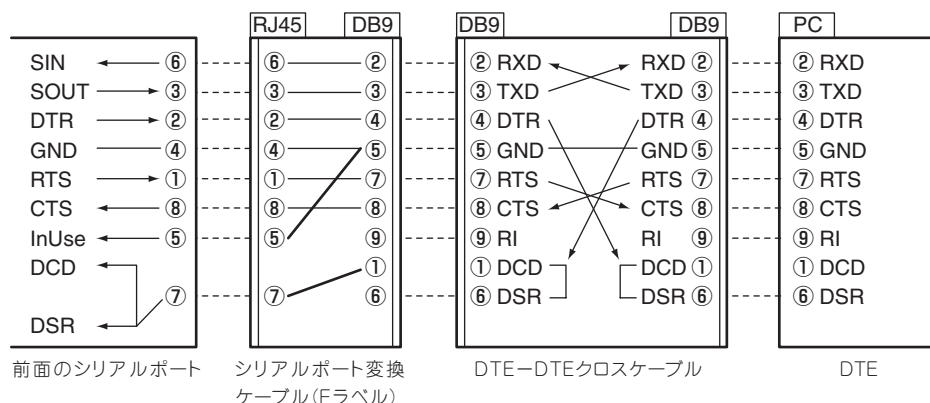
前面のシリアルポートと管理PC(DB9)との接続

管理PCなどDB9タイプのシリアルコネクタを持つ機器と前面のシリアルポートを介してシステムに接続する場合は、オプションの「シリアルポート変換ケーブル」を使用します。前面のシリアルポートに接続するケーブルには、「F」のラベルが貼り付けられています。間違わないようにしてください。



本体前面のシリアルポートへの接続では、ジャンパピンの設定を変える必要はありません。

以下の内部ケーブルの配線ブロック図を示します。



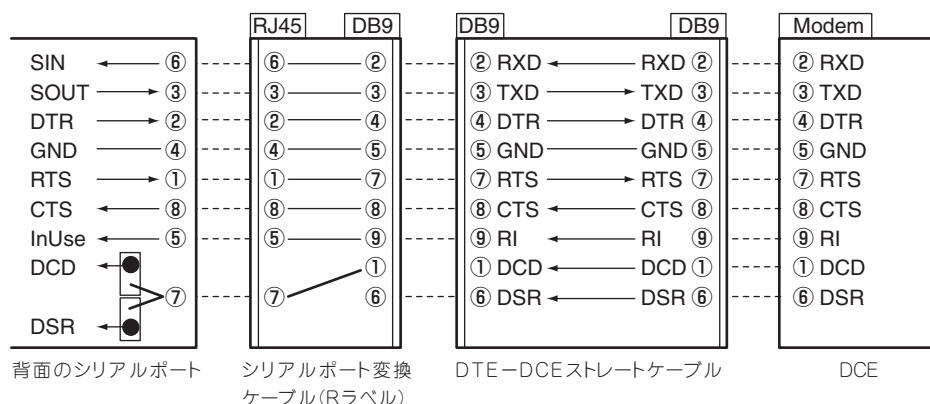
背面のシリアルポートとモデムとの接続

モデムと背面のシリアルポートに接続する場合は、オプションの「シリアルポート変換ケーブル」を使用します。背面のシリアルポートに接続するケーブルには、「R」のラベルが貼り付けられています。間違わないようにしてください。ジャンパピンの設定は「DCD+DSR」(出荷時の設定)にしてください。



本装置背面のアイコンをよく見て必ずシリアルポート2に接続してください。誤ってLANポートに接続しないよう注意してください。
誤挿入を防止するために、本装置に接続するLANケーブルのコネクタに「LANポート」と書かれたタグなどを付けて見分けられるようにしてください。

以下の内部ケーブルの配線ブロック図を示します。



背面のシリアルポートとUPSとの接続

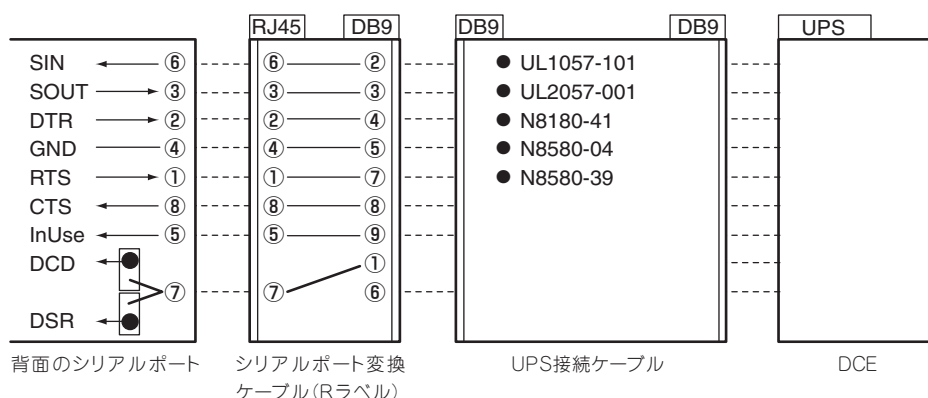
UPSを背面のシリアルポートに接続する場合は、オプションの「シリアルポート変換ケーブル」を使用します。背面のシリアルポートに接続するケーブルには、「R」のラベルが貼り付けられています。間違わないようにしてください。ジャンパピンの設定は「DCD+DSR」(出荷時の設定)にしてください。



本装置背面のアイコンをよく見て必ずシリアルポート2に接続してください。誤ってLANポートに接続しないよう注意してください。

誤挿入を防止するために、本装置に接続するLANケーブルのコネクタに「LANポート」と書かれたタグなどを付けて見分けられるようにしてください。

以下の内部ケーブルの配線ブロック図を示します。



背面のシリアルポートと管理PC (DB9)などとの接続

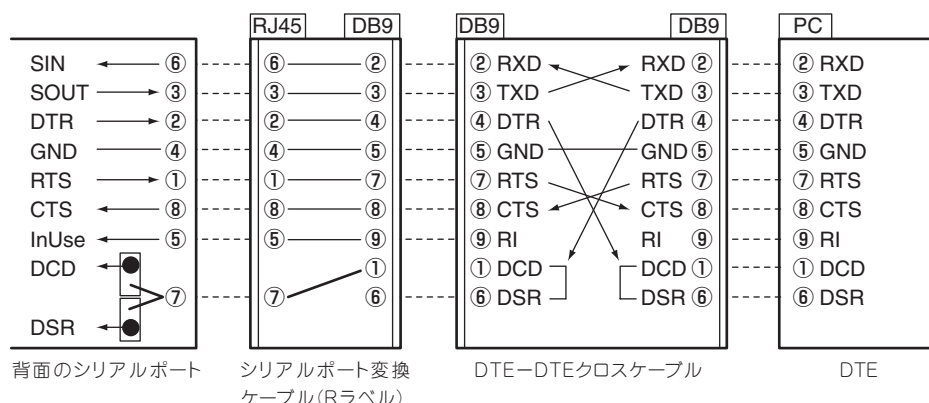
管理PCなどDB9タイプのシリアルコネクタを持つ機器と背面のシリアルポートに接続する場合は、オプションの「シリアルポート変換ケーブル」を使用します。背面のシリアルポートに接続するケーブルには、「R」のラベルが貼り付けられています。間違わないようにしてください。ジャンパピンの設定は「DCD+DSR」(出荷時の設定)にしてください。



本装置背面のアイコンをよく見て必ずシリアルポート2に接続してください。誤ってLANポートに接続しないよう注意してください。

誤挿入を防止するために、本装置に接続するLANケーブルのコネクタに「LANポート」と書かれたタグなどを付けて見分けられるようにしてください。

以下の内部ケーブルの配線ブロック図を示します。



背面のシリアルポートとDCD / DSR 信号を必要とする機器との接続

「ターミナルコンセントレータ」などに接続する場合は、接続先の機器やケーブルの説明書をよく読んでから接続してください。接続先の機器が必要とする信号によって本装置のジャンパピンを「DCD」または「DSR」に設定します。

本装置のジャンパ設定とシリアルポートの信号は次の図のとおりです。本装置とターミナルコンセントレータなどをRJ-45ケーブルで直接、接続する場合は、次の図を参照してケーブルを用意してください。

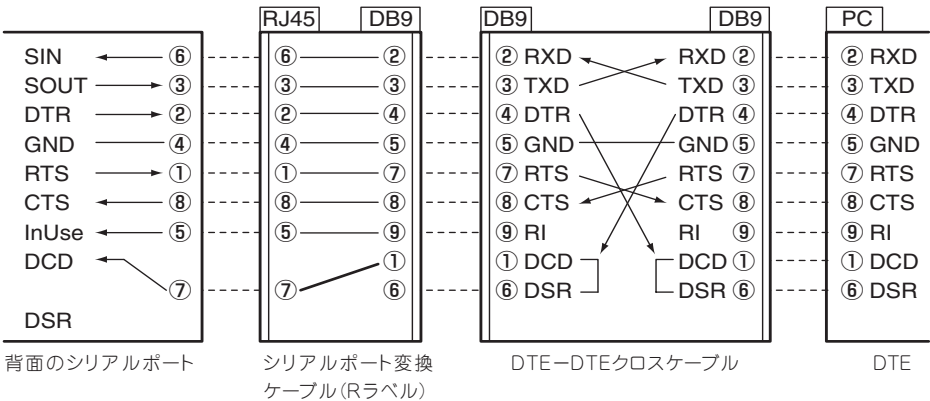


- 本装置背面のアイコンをよく見て必ずシリアルポート2に接続してください。誤ってLANポートに接続しないよう注意してください。
- 誤挿入を防止するために、本装置に接続するLANケーブルのコネクタに「LANポート」と書かれたタグなどを付けて見分けられるようにしてください。
- 本装置や周辺機器の破損を防ぐために、以下の項目を必ず守ってください。
 - － シールドされたケーブル(STPケーブル)を使用する場合は、接続先の機器のコネクタがSTPケーブルに対応していることを確認し、15m以下のSTPケーブルを使用し、Expressサーバと接続すること。
 - － シールドされていないケーブル(UTPケーブル)を使用する場合は、接続先の機器が同一ラックまたはそのラックに連結されたラックに搭載されていることを確認し、15m以下のUTPケーブルを使用し、Expressサーバと接続すること。
 - － 誤挿入を防止するために、本装置に接続するシリアルケーブルのコネクタに「するシリアルポート」と書かれたタグなどを付けて見分けられるようにすること。
- シリアルポートに接続したコネクタを抜くときは、コネクタのツメが手では押しにくくなっているため、マイナスドライバなどを使用してツメを押して抜いてください。また、その際にマイナスドライバなどがLANポートやその他のポートを破損しないよう十分に注意してください。

J6A2



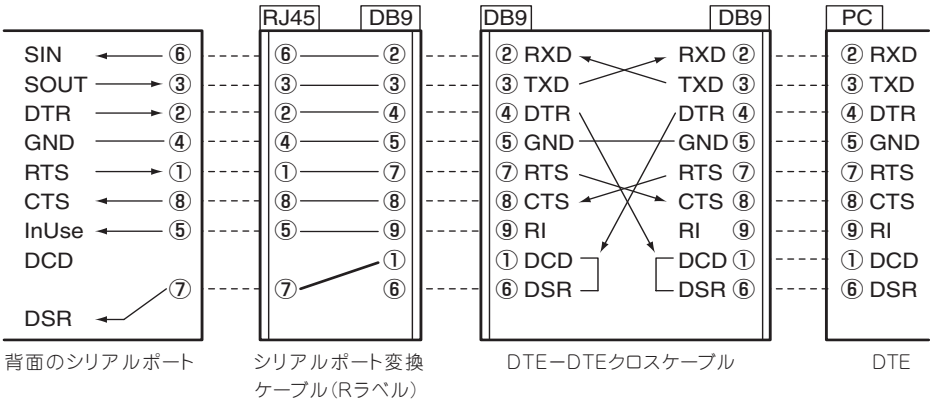
■ : ストラップ



J6A2



■ : ストラップ



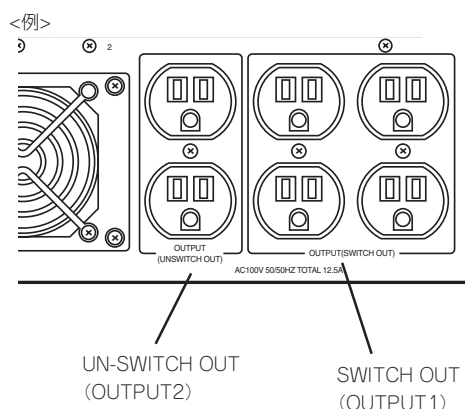
無停電電源装置(UPS)への接続について

本体の電源コードを無停電電源装置(UPS)に接続する場合は、UPSの背面にあるサービスコンセントに接続します。

UPSのサービスコンセントには、「SWITCH OUT」と「UN-SWITCH OUT」という2種類のコンセントがあります(「OUTPUT 1」、「OUTPUT 2」と呼ぶ場合もあります)。

UPSを制御するアプリケーション(ESMPRO/UPSCONTROLLERなど)から電源の制御をしたい場合は、SWITCH OUTに電源コードを接続します。

常時給電させたい場合は、UN-SWITCH OUTに電源コードを接続します(24時間稼働させるモデムなどはこのコンセントに接続します)。



本装置の電源コードをUPSに接続している場合は、UPSからの電源供給と連動(リンク)させるためにシステムBIOSの設定を変更してください。

BIOSの「Server」-「After Power Failure」を選択すると表示されるパラメータを切り替えることで設定することができます。詳しくは240ページを参照してください。

初めてのセットアップ

購入後、初めてシステムをセットアップする時の手順について順を追って説明します。

初期導入設定用ディスクの作成

「初期導入設定用ディスク」は装置をインターネットキャッシュサーバとして導入するために最低限必要となる設定情報が保存されたセットアップ用のフロッピーディスクです。

「初期導入設定用ディスク」は、添付の初期導入設定用ディスクにある「初期導入設定ツール」を使って作成します。初期導入設定ツールは、Windows XP/2000、Windows NT、またはWindows Me/98/95で動作するコンピュータで動作します。

初期導入設定プログラムの実行と操作の流れ

Windowsマシンを起動して、次の手順に従って初期導入設定用ディスクを作成します。

1. Windowsマシンのフロッピーディスクドライブに添付の初期導入設定用ディスクをセットする。
2. フロッピーディスクドライブ内の「初期導入設定ツール(CSNConf.exe)」をエクスプローラなどから実行する。

[初期導入設定ツール]が起動します。プログラムは、ウィザード形式となっており、各ページで設定に必要な事項を入力して進んでいきます。

必須情報が入力されていない場合や入力情報に誤りがある場合は、次へ進むときに警告メッセージが表示されます。項目を正しく入力し直してください。入力事項については、この後の説明を参照してください。

すべての項目の入力が完了すると、フロッピーディスクに設定情報を書き込んで終了します。

3. 初期導入設定用ディスクをフロッピーディスクドライブから取り出し、「システムのセットアップ」に進む。

初期導入設定用ディスクは再セットアップの際にも使用します。大切に保管してください。

各入力項目の設定

[初期導入設定ツール]で入力する項目について説明します。

パスワード設定画面

システムのセットアップ完了後、管理コンピュータからWebブラウザを介して、システムにログインする際のパスワードを設定します。この画面にある項目はすべて入力しないといけません。

パスワードは推測されにくく覚えやすいものを用意してください。



パスワードは画面に表示されません。タイプミスをしないよう注意してください。

管理者パスワード

初めて設定する場合は、同梱の別紙「rootパスワード」に記載されたパスワードを入力してください。以前に設定を行っている場合は、設定されているパスワードを入力してください。

新しいパスワード

設定するパスワードを入力してください。ここで入力したパスワードは、管理者(admin)でログインする場合に必要となります。パスワードを忘れたり、不正に利用されたりないように、パスワードの管理は厳重に行ってください。

なお、パスワードを変更したくない場合は、管理者パスワードと同一のパスワードを新しいパスワードとして設定してください。

(確認再入力)

パスワードの確認用です。新しいパスワードと同一のものを入力してください。

ネットワーク設定画面

LANポート1のネットワーク設定をします。

ホスト名

ホスト名を入力してください。

ドメイン名

ドメイン名を入力してください。

IPアドレス

LANポート1に割り振るIPアドレスを指定してください。

サブネットマスク

LANポート1に割り振るサブネットマスクを指定します。

デフォルトゲートウェイ

デフォルトゲートウェイのIPアドレスを指定します。

DNSサーバの設定画面

プライマリネームサーバ、セカンダリネームサーバ(存在する場合のみ)に割り当てているIPアドレスを入力します。

システムのセットアップ

初期導入設定ツールで作成した「初期導入設定用ディスク」を使用して、短時間でセットアップできます。

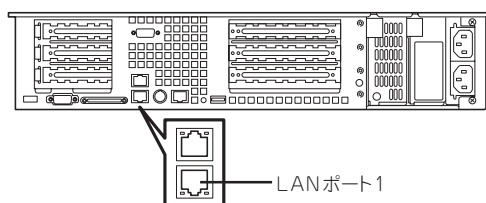
セットアップの手順

以下手順でセットアップをします。

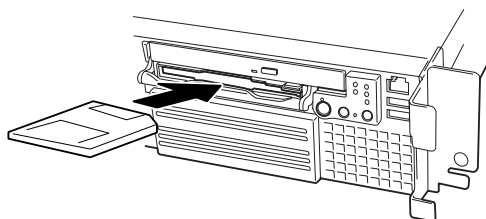


正しくセットアップできないときは、次ページ、および263ページを参照してください。

1. 本体背面のLANポート1にネットワークケーブルが接続されていることを確認する。



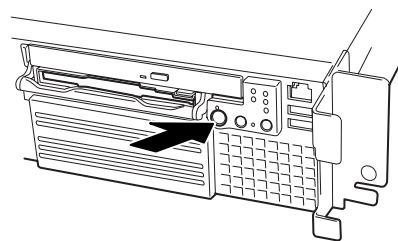
2. 前述の「初期導入設定用ディスクの作成」で作成した初期導入設定用ディスクを3.5インチフロッピーディスクドライブにセットする。



3. POWERスイッチを押す。
POWERランプが点灯します。

しばらくすると、初期導入設定用ディスクから設定情報を読み取り、自動的にセットアップを進めます。2～3分ほどでセットアップが完了します。

セットアップが完了したら、「Management Console (3章)」を参照してシステムの状態確認や設定変更を行ってください。



重要

セットアップの完了が確認できたらセットした初期導入設定用ディスクをフロッピーディスクドライブから取り出して大切に保管してください。再セットアップの時に再利用することができます。

セットアップに失敗した場合

システムのセットアップに失敗した場合は、ピープ音を鳴らしてユーザーに異常を知らせます（自動的に電源がOFF（POWERランプ消灯）になります）。正常にセットアップが完了しなかった場合は、初期導入設定用ディスクに書き出されるログファイル「logging.txt」の内容をコンピュータの「メモ帳」などのツールを使って確認し、再度初期導入設定ツールを使用して初期導入設定用ディスクを作成し直してください。

<主なログの出力例>

■ 「Info: completed.」

→ 正常にセットアップが完了した場合に表示されます。

■ 「Info: quitting with no change.」

→ 初期導入設定ツールを使って再度作成せずに、一度セットアップに使用した初期導入設定用ディスクを再使用した場合に表示されます（設定は反映されません）。

■ 「Cannot get authentication: root」

→ 初期導入設定用ディスク中のパスワードの指定に誤りがある場合に表示されます。

■ 「Error: invalid file: /mnt/floppy/linux.aut」

→ 初期導入設定用ディスク中のパスワード情報を格納したファイル（linux.aut）が正しく作成されなかった場合に表示されます。

■ 「Error: cannot open: /mnt/floppy/linux.aut」

→ 初期導入設定用ディスク中のパスワード情報を格納したファイル（linux.aut）が正しく作成されなかった場合に表示されます。

セットアップや運用時のトラブルについての対処を263ページで詳しく説明しています。

オンラインアップデートの実行

オンラインアップデートは、CacheServerシステムソフトウェアを最新の状態に維持して、最高の機能・性能を発揮できるようにするために必要な手続きです。セットアップ後、再セットアップ後に必ず実行してください。

詳細は、3章の「システムの管理」の「パッケージ」の「オンラインアップデート」を参照してください。

ESMPRO/ServerAgentのセットアップ

ESMPRO/ServerAgentは出荷時にインストール済みですが、固有の設定がされていません。5章を参照してセットアップしてください。

システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、添付の「保守・管理ツールCD-ROM」にあるオフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧（リストア）できなくなります。次の手順に従ってバックアップをしてください。



保守・管理ツールCD-ROMからシステムを起動して操作します。保守・管理ツールCD-ROMから起動させるためには、事前にセットアップが必要です。4章を参照して準備してください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. 本体に添付の「保守・管理ツールCD-ROM」から「オフライン保守ユーティリティ」を起動する。
「保守・管理ツールCD-ROM」の使い方については4章を参照してください。
3. [システム情報の管理]から[退避]を選択する。
以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

続いて管理コンピュータに本装置を監視・管理するアプリケーションをインストールします。次ページを参照してください。

管理コンピュータのセットアップ

本装置をネットワーク上のコンピュータから管理・監視するためのアプリケーションとして、「ESMPRO/ServerManager」と「Management Workstation Application(MWA)」が用意されています。これらのアプリケーションを管理コンピュータにインストールすることによりシステムの管理が容易になるだけでなく、システム全体の信頼性を向上することができます。

ESMPRO/ServerManagerのインストールについては5章を参照してセットアップしてください。

MWAのインストールについては4章、または保守・管理ツールCD-ROM内のオンラインドキュメントを参照してください。

再セットアップ

再セットアップとは、システムクラッシュなどの原因でシステムが起動できなくなった場合などに、添付の「バックアップCD-ROM」を使ってハードディスクを出荷時の状態に戻してシステムを起動できるようにするものです。以下の手順で再セットアップをしてください。



ヒント

標準装備のディスクアレイコントローラに接続されたハードディスクを初期化したり、オプションのディスクアレイコントローラを取り付けたりする場合は、ディスクアレイコントローラのコンフィグレーションをはじめに行ってください。ただし、次の点について注意してください。

- ディスクアレイを構築する場合は、ハードディスクが5台または6台必要です。
- 1つの論理ドライブのみを作成してください。複数の論理ドライブを作成することはできません。
- 構築するRAIDレベルは、RAID 5のみです。
- 本装置に取り付けられることができるディスクアレイコントローラはN8103-52(1枚)です。
- ディスクアレイの構築方法については、ディスクアレイコントローラに添付の説明書を参照してください(本書の6章で記載されているディスクアレイコントローラの項目でも簡単な手順が記載されています)。

保守用パーティションの作成

「保守用パーティション」とは、装置の維持・管理を行うためのユーティリティを格納するためのパーティションで、16MB程度の領域を内蔵ハードディスク上へ確保します。

システムの信頼性を向上するためにも保守用パーティションを作成することをお勧めします。

保守用パーティションは、添付の「保守・管理ツールCD-ROM」を使って作成します。詳しくは4章を参照してください。

保守用パーティションを作成するプロセスで保守用パーティションへ自動的にインストールされるユーティリティは、「システム診断ユーティリティ」と「オフライン保守ユーティリティ」です。

再セットアップモードへの変更

本装置は、システムの起動が正常に行われたかどうか常に監視をし、起動に失敗した場合はシステムの再起動を試みる機能が備わっています。再インストール中は、システム起動監視機能を無効にする必要があります。

本機能の有効／無効は、添付の「保守・管理ツールCD-ROM」を使って変更します。詳しくは、4章を参照してください。



重要

再セットアップが完了したら、システム起動監視機能を有効に戻してください。

システムの再インストール



再インストールを行うと、サーバ内の全データが消去され、出荷時の状態に戻ります。必要なデータがサーバ内に残っている場合、データをバックアップしてから再インストールを実行してください。

再インストールには、本体添付のバックアップCD-ROMとバックアップCD-ROM用インストールディスクが必要です。本体には、2種類の「バックアップCD-ROM用インストールディスク」が添付されています。ディスクアレイコントローラを搭載し、ディスクアレイを構築する場合は、フロッピーディスクのラベルに「ディスクアレイ構成向け」と書かれたものを使用してください。ディスクアレイを構築しない場合は、ラベルに「標準構成向け」と書かれたフロッピーディスクを使用します。

「バックアップCD-ROM用インストールディスク」を3.5インチフロッピーディスクドライブに、「バックアップCD-ROM」をCD-ROMドライブにそれぞれ挿入し、POWERスイッチを押して電源をONにします。



このとき、前面のシリアルポート2 (COM2) に管理コンピュータを19,200bpsの転送速度で接続すると、管理コンピュータからログを参照することができます。

しばらくすると「バックアップCD-ROM用インストールディスク」から設定情報を読み取り、自動的にインストールを実行します。



このとき、確認等は一切行われずにインストール作業が開始されるため、十分注意してください。

約10分程度でインストールが完了します。インストールが完了したら、CD-ROMが自動的にイジェクトされます。CD-ROMとフロッピーディスクの両方をドライブから取り出してください。

15分以上待っても、CD-ROMがイジェクトされず、CD-ROMへのアクセスも行われていない場合は再インストールに失敗している可能性があります。リセットして、CD-ROM/フロッピーディスクをセットし直して再度インストールを試みてください。それでもインストールできない場合は、保守サービス会社、またはお買い上げの販売店までご連絡ください。

再インストールの際には、下記のURLを御覧いただけますよう、お願い申し上げます。セキュリティ問題などが常に修正/公開されております。

<http://express5800.com/>

→ ケア・サポート

→ ダウンロード

初期導入設定用ディスクの作成

前述の「初期導入設定用ディスクの作成」を参照してください。すでに初期導入設定用ディスクを作成している場合は、パスワード情報の設定のみ再度設定し直してください。ただし、設定内容を変えたいときは、新たに初期導入用設定ディスクを作り直してください。

システムのセットアップ

前述の「システムのセットアップ」を参照してください。

オンラインアップデートの実行

オンラインアップデートは、CacheServerシステムソフトウェアを最新の状態に維持して、最高の機能・性能を発揮できるようにするために必要な手続きです。セットアップ後、再セットアップ後に必ず実行してください。

詳細は、3章の「システムの管理」の「パッケージ」の「オンラインアップデート」を参照してください。

ESMPRO/ServerAgentのセットアップ

「システムの再インストール」でESMPRO/ServerAgentは自動的にインストールされますが、固有の設定がされていません。5章を参照してセットアップしてください。

～Memo～